

令和4年7月20日(水)

令和4年度第1学期終業式 式辞

県立豊岡総合高等学校

校長 山本 宏治

1学期終業式となりました。

これまで何度も「気づく力はとても大切なんですよ」という話をしてきました。挨拶は「あなたに気づいているのですよ」という心が言葉になって表れたものですし、掃除やごみ拾いは「いつも使っている大切な場所が汚れている、放ってはおけないな」という心が行動となって表れたものにほかなりません。

先日、龍野北高等学校で「高校生ものづくりコンテスト兵庫県大会(電気工事部門)」が行われました。近畿、全国へと続く最初の一步となる県大会です。暑い中、クーラーもない競技会場で2時間、作品づくりに取り組んだ高校生たちは、額に汗しながらすばらしい笑顔で大会を終えてくれました。朝、私が会場に到着したときには、出場する生徒のほかに、補助役をつとめる生徒、そして大会を運営する生徒など、たくさんの高校生がいました。そして皆、大きな声で、目を見て「おはようございます!」とあいさつをしてくれました。これは人としての基礎基本です。すばらしい、さすが自慢の工業高校生だ、と思いました。

コンテストにしても、部活動の大会やコンクールにしても、当日の朝であるとか、本番直前であるとか、そういった場面では誰でも「自分」のことで頭がいっぱいになります。緊張感や不安で、周囲のことがあまりよく見えなくなるのは、当然のことでしょう。しかし、大会やコンテスト、コンクールでよい結果を残す人は、実は大会当日の朝、家を出発するときに玄関の靴をそろえたり、会場のトイレでスリッパが乱雑になっているのを見ると、そっと並べなおしたり…そういう行動ができるものなのです。これは、経験上、真実だと私は思っています。緊張感が高まる大会当日の朝にも、周囲のことにきちんと気づくことができている。これは間違いなく、自分の持っている力を出し切るための、土台の部分なのです。「自分はこれから大会やのに…」「時間がないよ…」ということがいっぱいいっぱいになってしまうと、力はいし切れません。

どうぞ、この1学期に皆さんが見せてくれた、「笑顔の挨拶」「ちょっとした気遣いの姿勢」を、今後も持ち続けましょう。豊総は、人としての基礎基本を大切にしている学校でありたい、そう強く願います。

さて、結びに「命のリレー」のお話です。皆さん聞いたことがありますよね。あなたの一世代前（お父さんお母さん）は2人。父母のそれぞれの父母、つまりあなたの祖父母は4人、そのまた父母は8人、さらにその父母は16人…とさかのぼっていくと、10世代前、約250年前には1,024人、20世代前、約500年前には1,048,576人、約六百数十年さかのぼると、今の日本の人口より多い134,217,728人、になるというお話です。600年前というと「何」時代の頃のことでしょうか。いずれにしても、この間、1億3千万をこえるあなたの祖先のうち、だれ一人が欠けても、あなたは生まれてこなかった…。そう考えると、あなたのいのちは、なにものにも代えられないもので、あなたはとっても大切な人なのだということがあらためてわかると思います。

どうぞ安全安心な夏休みを過ごすとともに、コロナウイルス感染症については、いつ、だれが感染してもおかしくない社会状況ですから、「学校で広げない」ために、皆で力を合わせましょう。感染した人がいたとしても、私たちがかけるべき声は「また、はよ学校出てきてな。いっしょに部活しようで、弁当いっしょに食べようで。」これ以外にない、ということをお私たちの行動で示しましょう。

では、8月30日（火）の始業式の日にはふたたび「おかえりなさい」という言葉で皆さんを迎えます。その時まで、ご安全に。

以上で、式辞とします。